

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年8月12日
【四半期会計期間】	第36期第1四半期（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）
【会社名】	日本電信電話株式会社
【英訳名】	NIPPON TELEGRAPH AND TELEPHONE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 澤田 純
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目5番1号
【電話番号】	(03)6838-5481
【事務連絡者氏名】	財務部門IR室長 藤城 夏子
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町一丁目5番1号
【電話番号】	(03)6838-5481
【事務連絡者氏名】	財務部門IR室長 藤城 夏子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第35期 前第1四半期 連結累計期間	第36期 当第1四半期 連結累計期間	第35期
会計期間		自2019年4月 1日 至2019年6月30日	自2020年4月 1日 至2020年6月30日	自2019年4月 1日 至2020年3月31日
営業収益	百万円	2,915,438	2,766,457	11,899,415
税引前四半期（当期）利益	百万円	526,783	496,619	1,570,141
当社に帰属する四半期（当期）利益	百万円	280,530	272,638	855,306
当社に帰属する四半期（当期）包括利益	百万円	246,156	332,476	743,451
株主資本	百万円	9,128,194	9,418,194	9,061,103
総資産額	百万円	22,568,589	23,420,230	23,014,133
基本的1株当たり当社に帰属する四半期（当期）利益	円	73.66	73.51	231.21
希薄化後1株当たり当社に帰属する四半期（当期）利益	円	-	-	-
株主資本比率	%	40.4	40.2	39.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	474,990	482,100	2,995,211
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	380,148	804,340	1,852,727
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	11,130	361,917	1,041,261
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	百万円	1,021,496	1,072,531	1,033,574

(注) 1. 当社の連結財務諸表は、IFRS（国際財務報告基準）に基づいて作成しています。

2. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
3. 営業収益には消費税等は含まれておりません。
4. 希薄化後1株当たり当社に帰属する四半期（当期）利益につきましては、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。
5. 当社は、2020年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っており、第35期第1四半期連結累計期間及び第35期連結会計年度の基本的1株当たり当社に帰属する四半期（当期）利益について、当該株式分割調整後の数値を記載しています。

#### 2【事業の内容】

NTTグループ（当社及び当社の関係会社）は、移動通信事業、地域通信事業、長距離・国際通信事業及びデータ通信事業を主な事業内容としています。

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 連結業績

(単位：億円)

	2019年度 第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	2020年度 第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	増減	増減率
営業収益	29,154	27,665	1,490	5.1%
営業費用	24,102	22,689	1,414	5.9%
営業利益	5,052	4,976	76	1.5%
税引前四半期利益	5,268	4,966	302	5.7%
当社に帰属する 四半期利益	2,805	2,726	79	2.8%

当第1四半期連結累計期間(2020年4月1日～2020年6月30日)において、NTTグループは、2018年11月に公表した中期経営戦略「Your Value Partner 2025」に基づき、「Your Value Partner」として、事業活動を通じてパートナーの皆さまとともに社会的課題の解決をめざす取り組みを推進しました。その結果、当第1四半期連結累計期間のNTTグループの営業収益は2兆7,665億円(前年同期比5.1%減)、営業費用は2兆2,689億円(前年同期比5.9%減)となりました。営業利益は4,976億円(前年同期比1.5%減)、税引前四半期利益は4,966億円(前年同期比5.7%減)、当社に帰属する四半期利益は2,726億円(前年同期比2.8%減)となりました。

#### (2) セグメント業績

NTTグループの事業は5つのオペレーティング・セグメント、すなわち、移動通信事業セグメント、地域通信事業セグメント、長距離・国際通信事業セグメント、データ通信事業セグメント及びその他の事業セグメントに区分しています。(要約四半期連結財務諸表の注6参照)

移動通信事業セグメントには、移動音声関連サービス、IP系・パケット通信サービス、通信端末機器販売、その他が含まれています。

地域通信事業セグメントには、固定音声関連サービス、IP系・パケット通信サービス、通信端末機器販売、システムインテグレーションサービス、その他が含まれています。

長距離・国際通信事業セグメントには、固定音声関連サービス、IP系・パケット通信サービス、通信端末機器販売、システムインテグレーションサービス、その他が含まれています。

データ通信事業セグメントには、システムインテグレーションサービスが含まれています。

また、その他の事業セグメントには、主に建築物の保守、不動産賃貸、システム開発、リース、研究開発等に係るその他のサービスが含まれています。

各セグメントの業績については、次のとおりです。なお、各セグメントの営業実績の記載における営業収益・営業費用・営業利益は、セグメント間取引を含んでいます。

前第2四半期連結会計期間より、一部の子会社が「地域通信事業」から「その他の事業」へ、また、「長距離・国際通信事業」から「移動通信事業」へそれぞれセグメント間を異動しており、同期間以降は異動後のセグメントで営業収益を認識しています。(要約四半期連結財務諸表の注6参照)

移動通信事業セグメント

(単位：億円)

	2019年度 第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	2020年度 第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	増減	増減率
営業収益	11,593	10,982	611	5.3%
移動音声関連サービス	2,336	2,733	398	17.0%
IP系・パケット通信サービス	5,412	4,948	465	8.6%
通信端末機器販売	1,677	900	777	46.3%
その他	2,168	2,401	232	10.7%
営業費用	8,806	8,176	630	7.1%
営業利益	2,787	2,805	18	0.7%

当第1四半期連結累計期間の営業収益は、一部子会社のセグメント間異動等に伴うスマートライフ領域の増収があったものの、通信端末機器販売収入の減少や、「ギガホ」「ギガライト」等のお客さま還元による減収等により、1兆982億円（前年同期比5.3%減）となりました。一方、営業費用は、端末販売台数減少に伴う端末機器原価の減少等により、8,176億円（前年同期比7.1%減）となりました。以上の結果、営業利益は、2,805億円（前年同期比0.7%増）となりました。

契約数

(単位：千契約)

サービスの種類	2020年3月31日 現在	2020年6月30日 現在	増減	増減率
携帯電話サービス	80,326	80,615	289	0.4%
5Gサービス	14	149	135	930.7%
LTE (Xi) サービス	61,664	62,397	733	1.2%
FOMAサービス	18,648	18,069	579	3.1%
ぷらら (ISP)	3,938	3,949	11	0.3%
ひかりTV	2,983	2,963	20	0.7%

(注) 携帯電話サービス契約数、LTE (Xi) サービス契約数及びFOMAサービス契約数にはMVNOとの契約及び通信モジュールサービス契約を、5Gサービス契約数にはMVNOとの契約を含めて記載しています。

## 地域通信事業セグメント

(単位：億円)

	2019年度 第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	2020年度 第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	増減	増減率
営業収益	7,465	7,363	102	1.4%
固定音声関連サービス	2,553	2,352	201	7.9%
IP系・パケット通信サービス	3,725	3,810	85	2.3%
通信端末機器販売	178	143	35	19.8%
システムインテグレーションサービス	297	313	16	5.3%
その他	712	746	34	4.7%
営業費用	6,019	6,106	87	1.4%
営業利益	1,446	1,257	189	13.1%

当第1四半期連結累計期間の営業収益は、固定音声関連サービス収入の減少等により、7,363億円（前年同期比1.4%減）となりました。一方、営業費用は、固定資産の除却等により、6,106億円（前年同期比1.4%増）となりました。以上の結果、営業利益は、1,257億円（前年同期比13.1%減）となりました。

## 契約数

(単位：千加入/回線/契約/チャンネル)

サービスの種類	2020年3月31日 現在	2020年6月30日 現在	増減	増減率
(NTT東日本)				
加入電話	7,528	7,407	122	1.6%
INSネット	982	961	21	2.1%
フレッツ光(コラボ光含む)	12,240	12,400	160	1.3%
フレッツ・ADSL	201	189	11	5.5%
ひかり電話	9,940	9,963	23	0.2%
フレッツ・テレビ伝送サービス	1,082	1,091	10	0.9%
(NTT西日本)				
加入電話	7,615	7,472	144	1.9%
INSネット	960	939	21	2.2%
フレッツ光(コラボ光含む)	9,418	9,524	105	1.1%
フレッツ・ADSL	282	265	17	5.9%
ひかり電話	8,563	8,579	16	0.2%
フレッツ・テレビ伝送サービス	747	757	10	1.4%

(注) 1. 加入電話は、一般加入電話とビル電話を合算しています(加入電話・ライトプランを含む)。

2. 「INSネット」には、「INSネット64」および「INSネット1500」が含まれています。「INSネット1500」は、チャンネル数、伝送速度、回線使用料(基本料)いずれについても「INSネット64」の10倍程度であることから、「INSネット1500」の1契約を「INSネット64」の10倍に換算しています(INSネット64・ライトを含む)。
3. 「フレッツ光(コラボ光含む)」はNTT東日本の「フレッツ 光クロス」、「Bフレッツ」、「フレッツ 光ネクスト」、「フレッツ 光ライト」、「フレッツ 光ライトプラス」及び「フレッツ 光WiFiアクセス」、NTT西日本の「フレッツ 光クロス」、「フレッツ 光ネクスト」、「フレッツ 光マイタウン ネクスト」、「フレッツ 光ライト」及び「フレッツ 光WiFiアクセス」、並びにNTT東日本及びNTT西日本がサービス提供事業者から卸提供しているサービス(コラボ光)を含めて記載しています。
4. 「ひかり電話」、「フレッツ・テレビ伝送サービス」は、NTT東日本およびNTT西日本がサービス提供事業者から卸提供しているサービスを含めて記載しています。

長距離・国際通信事業セグメント

(単位：億円)

	2019年度 第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	2020年度 第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	増減	増減率
営業収益	5,559	4,873	686	12.3%
固定音声関連サービス	504	504	1	0.1%
IP系・パケット通信サービス	1,064	1,056	7	0.7%
通信端末機器販売	26	16	10	38.8%
システムインテグレーションサービス	3,522	3,078	443	12.6%
その他	443	219	225	50.7%
営業費用	5,268	4,468	801	15.2%
営業利益	291	405	115	39.5%

当第1四半期連結累計期間の営業収益は、海外を中心としたシステムインテグレーションサービス収入の減少や一部子会社のセグメント間異動に伴う減収等により、4,873億円（前年同期比12.3%減）となりました。一方、営業費用は、前年度実施した海外における構造改革等のコスト削減等により、4,468億円（前年同期比15.2%減）となりました。以上の結果、営業利益は、405億円（前年同期比39.5%増）となりました。

契約数

(単位：千契約)

サービスの種類	2020年3月31日 現在	2020年6月30日 現在	増減	増減率
OCN (ISP)	7,153	7,116	36	0.5%

データ通信事業セグメント

(単位：億円)

	2019年度 第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	2020年度 第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	増減	増減率
営業収益	5,273	5,309	37	0.7%
システムインテグレーションサービス	5,273	5,309	37	0.7%
営業費用	4,974	5,042	68	1.4%
営業利益	298	267	32	10.6%

当第1四半期連結累計期間の営業収益は、国内における公共・社会基盤分野を中心としたビジネス規模拡大等により、5,309億円（前年同期比0.7%増）となりました。一方、営業費用は、収益連動費用の増加等により、5,042億円（前年同期比1.4%増）となりました。以上の結果、営業利益は、267億円（前年同期比10.6%減）となりました。

## その他の事業セグメント

(単位：億円)

	2019年度 第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	2020年度 第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	増減	増減率
営業収益	3,385	3,442	57	1.7%
営業費用	3,097	3,158	62	2.0%
営業利益	289	284	5	1.6%

当第1四半期連結累計期間は、関係会社の子会社化による連結拡大影響等により、営業収益は、3,442億円（前年同期比1.7%増）となり、営業費用は、3,158億円（前年同期比2.0%増）となりました。以上の結果、営業利益は、284億円（前年同期比1.6%減）となりました。

## (3) キャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、4,821億円の収入となりました。休日影響を除いた対前年同期比では、38億円（0.8%）減少しております。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」については、8,043億円の支出となりました。前年同期比では、4,242億円（111.6%）支出が増加しておりますが、これは、前期における投資の売却による収入や、当期における出資による支出などによるものであります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」については、3,619億円の収入となりました。前年同期比では、3,730億円収入が増加しておりますが、これは、前期における自己株式の取得や、当期における自己株式の売却などによるものであります。

以上の結果、当第1四半期末におけるNTTグループの「現金及び現金同等物の残高」は、前連結会計年度末と比較して390億円（3.8%）増加し、1兆725億円となりました。

(単位：億円)

	2019年度 第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	2020年度 第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	増減	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー (注)3	4,750	4,821	71	1.5%
営業活動によるキャッシュ・フロー (休日影響(注)1を除く) (注)3	4,859	4,821	38	0.8%
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,801	8,043	4,242	111.6%
財務活動によるキャッシュ・フロー (注)3	111	3,619	3,730	-
現金及び現金同等物の期末残高	10,215	10,725	510	5.0%
現金及び現金同等物の期末残高 (休日影響(注)2を除く)	12,561	10,725	1,835	14.6%

(注)1. 前々期末日及び前第1四半期末日が休日だったことから、通信サービス料金等の支払期限が月末から翌月初に後倒しとなった影響109億円。

2. 前第1四半期末日が休日だったことから、通信サービス料金等の支払期限が月末から翌月初に後倒しとなった影響2,346億円。

3. 2019年度以降はIFRS16号影響を含んだ額。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題で、重要な変更及び新たに発生した事項はありません。また、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は499億円であり、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,192,920,900
計	6,192,920,900

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,900,788,940	3,900,788,940	㈱東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	3,900,788,940	3,900,788,940	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年4月1日～ 2020年6月30日		3,900,788,940		937,950		2,672,826

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 184,821,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,711,417,800	37,114,166	-
単元未満株式	普通株式 4,550,040	-	-
発行済株式総数	普通株式 3,900,788,940	-	-
総株主の議決権	-	37,114,166	-

(注)上記「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ57,400株、88株含まれています。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数574個が含まれており、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に保有していない完全議決権株式に係る議決権の数12個が含まれていません。

【自己株式等】

2020年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本電信電話(株)	東京都千代田区大手町 一丁目5番1号	184,821,100	-	184,821,100	4.7%
計		184,821,100	-	184,821,100	4.7%

(注)上記のほか、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に保有していない株式が1,200株あります。  
なお、当該株式数は上記(発行済株式)の「完全議決権株式(その他)」の欄に含まれています。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けています。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み及びIFRSに基づいて連結財務諸表等を適正に作成することができる体制の整備について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み及びIFRSに基づいて連結財務諸表等を適正に作成することができる体制の整備を行っています。その内容は以下のとおりです。

- (1) 会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更への確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構等の団体へ加入しています。また、定期的に会計基準の検討を行うとともに、社内規程を整備しています。
- (2) IFRSの適用については、国際会計基準審議会が公表するプレスリリースや基準書を随時入手し、最新の基準の把握を行っています。また、IFRSに基づく適正な連結財務諸表を作成するために、IFRSに準拠したグループ会計方針及び会計指針を作成し、それらに基づいて会計処理を行っています。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度末 (2020年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間末 (2020年6月30日)
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び現金同等物		1,033,574	1,072,531
営業債権及びその他の債権		3,502,834	3,233,588
その他の金融資産	13	32,384	35,759
棚卸資産		257,329	308,400
その他の流動資産		530,073	750,198
小計		5,356,194	5,400,476
売却目的で保有する資産	8	1,347,307	1,345,527
流動資産合計		6,703,501	6,746,003
<b>非流動資産</b>			
有形固定資産	9	9,087,463	9,071,862
使用権資産		446,828	533,813
のれん		980,841	975,743
無形資産		1,694,060	1,681,387
投資不動産		1,106,145	1,116,550
持分法で会計処理されている投資		283,291	343,213
その他の金融資産	13	846,285	1,153,698
繰延税金資産		1,153,042	1,085,200
その他の非流動資産		712,677	712,761
非流動資産合計		16,310,632	16,674,227
資産合計		23,014,133	23,420,230

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度末 (2020年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間末 (2020年6月30日)
<b>(負債及び資本の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
短期借入債務	10, 13	2,054,506	2,423,780
営業債務及びその他の債務		2,142,752	1,820,739
リース負債		154,126	154,017
その他の金融負債	13	16,943	12,726
未払人件費		469,395	398,950
未払法人税等		214,098	100,247
その他の流動負債		996,360	986,576
小計		6,048,180	5,897,035
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	8	559,432	552,024
流動負債合計		6,607,612	6,449,059
<b>非流動負債</b>			
長期借入債務	10, 13	2,165,778	2,266,013
リース負債		378,346	452,959
その他の金融負債	13	129,229	128,623
確定給付負債		1,873,501	1,879,152
繰延税金負債		70,249	73,344
その他の非流動負債		326,791	334,908
非流動負債合計		4,943,894	5,134,999
負債合計		11,551,506	11,584,058
<b>資本</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	11	937,950	937,950
資本剰余金	11	2,252,672	2,249,974
利益剰余金	11	6,499,942	6,598,281
自己株式	11	653,369	453,378
その他の資本の構成要素	11	23,908	85,367
株主資本合計		9,061,103	9,418,194
非支配持分		2,401,524	2,417,978
資本合計		11,462,627	11,836,172
負債及び資本合計		23,014,133	23,420,230

**【(2)【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】】**

**【要約四半期連結損益計算書】**

**【第1四半期連結累計期間】**

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (2019年4月 1日から 2019年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2020年4月 1日から 2020年6月30日まで)
営業収益	6, 12	2,915,438	2,766,457
営業費用			
人件費		605,982	608,501
経費		1,390,314	1,238,948
減価償却費		360,517	368,232
固定資産除却費		21,141	21,565
減損損失		1,547	30
租税公課		30,743	31,595
営業費用合計		2,410,244	2,268,871
営業利益	6	505,194	497,586
金融収益		31,383	8,337
金融費用		12,290	10,993
持分法による投資損益		2,496	1,689
税引前四半期利益		526,783	496,619
法人税等		162,825	149,177
四半期利益		363,958	347,442
当社に帰属する四半期利益		280,530	272,638
非支配持分に帰属する四半期利益		83,428	74,804
当社に帰属する1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)		73.66	73.51

当社は、2020年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり四半期利益を算定しております。

## 【要約四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (2019年4月 1日から 2019年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2020年4月 1日から 2020年6月30日まで)
四半期利益		363,958	347,442
その他の包括利益(税引後)	11		
損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値測定する金融資産の公正価値変動額		7,989	70,809
持分法適用会社のその他の包括利益に対する持分		592	107
確定給付制度の再測定		267	61
損益に振り替えられることのない項目合計		7,130	70,977
損益に振り替えられる可能性のある項目			
キャッシュ・フロー・ヘッジ		92	2,797
外貨換算調整額		48,355	1,049
持分法適用会社のその他の包括利益に対する持分		989	823
損益に振り替えられる可能性のある項目合計		49,252	4,669
その他の包括利益(税引後)合計		42,122	75,646
四半期包括利益合計		321,836	423,088
当社に帰属する四半期包括利益	11	246,156	332,476
非支配持分に帰属する四半期包括利益	11	75,680	90,612

**(3)【要約四半期連結持分変動計算書】**

前第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）

（単位：百万円）

	注記	株主資本					合計	非支配持分	資本合計
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素			
2019年3月31日		937,950	2,341,206	5,954,305	150,635	182,087	9,264,913	2,539,877	11,804,790
四半期包括利益									
四半期利益		-	-	280,530	-	-	280,530	83,428	363,958
その他の包括利益	11	-	-	-	-	34,374	34,374	7,748	42,122
四半期包括利益合計		-	-	280,530	-	34,374	246,156	75,680	321,836
株主との取引額等									
剰余金の配当	11	-	-	182,153	-	-	182,153	74,116	256,269
利益剰余金への振替	11	-	-	28,810	-	28,810	-	-	-
自己株式の取得及び処分	11	-	0	-	180,246	-	180,246	-	180,246
支配継続子会社に対する持分変動	11	-	10,461	-	-	-	10,461	26,844	37,305
株式に基づく報酬取引		-	2,096	-	-	-	2,096	-	2,096
非支配持分へ付与されたプット・オプション	11	-	11,120	-	-	-	11,120	373	11,493
その他		-	-	991	-	-	991	-	991
株主との取引額等合計		-	19,485	154,334	180,246	28,810	382,875	101,333	484,208
2019年6月30日		937,950	2,321,721	6,080,501	330,881	118,903	9,128,194	2,514,224	11,642,418

当第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）

（単位：百万円）

	注記	株主資本					合計	非支配持分	資本合計
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素			
2020年3月31日		937,950	2,252,672	6,499,942	653,369	23,908	9,061,103	2,401,524	11,462,627
四半期包括利益									
四半期利益		-	-	272,638	-	-	272,638	74,804	347,442
その他の包括利益	11	-	-	-	-	59,838	59,838	15,808	75,646
四半期包括利益合計		-	-	272,638	-	59,838	332,476	90,612	423,088
株主との取引額等									
剰余金の配当	11	-	-	172,672	-	-	172,672	75,316	247,988
利益剰余金への振替	11	-	-	1,621	-	1,621	-	-	-
自己株式の取得及び処分	11	-	0	-	199,991	-	199,991	-	199,991
支配継続子会社に対する持分変動		-	1,716	-	-	-	1,716	139	1,577
株式に基づく報酬取引		-	2,902	-	-	-	2,902	-	2,902
非支配持分へ付与されたプット・オプション	11	-	52	-	-	-	52	26	78
その他		-	1,972	6	-	-	1,966	1,045	3,011
株主との取引額等合計		-	2,698	174,299	199,991	1,621	24,615	74,158	49,543
2020年6月30日		937,950	2,249,974	6,598,281	453,378	85,367	9,418,194	2,417,978	11,836,172



## (4)【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
四半期利益		363,958	347,442
減価償却費		360,517	368,232
減損損失		1,547	30
持分法による投資損益(は益)		2,496	1,689
固定資産除却損		8,822	9,716
固定資産売却益		5,533	6,869
法人税等		162,825	149,177
営業債権及びその他の債権の増減 (は増加額)	7	252,617	280,816
棚卸資産の増減(は増加額)		21,960	53,076
その他の流動資産の増減(は増加額)		89,397	100,356
営業債務及びその他の債務・未払人件費の 増減(は減少額)		273,491	187,906
その他の流動負債の増減(は減少額)		1,700	3,780
確定給付負債の増減(は減少額)		5,553	5,712
その他の非流動負債の増減(は減少額)		849	6,599
その他		23,601	18,089
小計		785,830	795,959
利息及び配当金の受取額		30,211	26,730
利息の支払額		12,570	11,576
法人税等の支払額		328,481	329,013
営業活動によるキャッシュ・フロー		474,990	482,100
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産・無形資産及び投資不動産の 取得による支出		566,889	550,280
投資の取得による支出		51,538	269,635
投資の売却または償還による収入		247,938	10,166
子会社の支配獲得による支出		38,797	763
その他		29,138	6,172
投資活動によるキャッシュ・フロー		380,148	804,340
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
短期借入債務の収支(は支出)		663,785	351,099
長期借入債務の増加による収入	10	67,206	185,574
長期借入債務の返済による支出	10	193,988	68,242
リース負債の返済による支出		45,929	57,631
非支配持分からの子会社持分取得による支 出		75,491	2,935
配当金の支払額		182,153	172,672
非支配持分への配当金の支払額		72,091	73,376
自己株式の取得及び売却		178,786	199,972
その他		6,317	128
財務活動によるキャッシュ・フロー		11,130	361,917
現金及び現金同等物に係る換算差額		8,350	720
現金及び現金同等物の増減額(は減少額)		75,362	38,957
現金及び現金同等物の期首残高	7	946,134	1,033,574
現金及び現金同等物の四半期末残高	7	1,021,496	1,072,531

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

日本電信電話株式会社(以下、「当社」)は、日本国に所在する株式会社です。当社の登記されている本社の住所は、ホームページ(<https://www.ntt.co.jp/index.html>)で開示しています。本要約四半期連結財務諸表は当社及び子会社(以下「NTTグループ」)より構成されています。

NTTグループの事業セグメントと主な子会社は以下のとおりです。

移動通信事業(携帯電話事業及びそれに関連する事業)

- ・株式会社NTTドコモ(以下「NTTドコモ」)

地域通信事業(国内電気通信事業における県内通信サービスの提供及びそれに附帯する事業)

- ・東日本電信電話株式会社(以下「NTT東日本」)
- ・西日本電信電話株式会社(以下「NTT西日本」)

長距離・国際通信事業(国内電気通信事業における県間通信サービス、国際通信事業、ソリューション事業及びそれに関連する事業)

- ・エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社(以下「NTTコミュニケーションズ」)
- ・NTT Ltd.

データ通信事業(システムインテグレーション、ネットワークシステムサービス等の事業)

- ・株式会社エヌ・ティ・ティ・データ(以下「NTTデータ」)

### 2. 作成の基礎

#### (1) IFRSに準拠している旨

NTTグループは、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同規則第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成しています。要約四半期連結財務諸表は、2020年8月11日において取締役会が承認しています。

要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求される全ての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

#### (2) 測定的基础

要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定している金融商品、確定給付制度に関連して認識する資産及び負債などを除き、取得原価を基礎として作成しています。

#### (3) 機能通貨及び表示通貨

要約四半期連結財務諸表の表示通貨は、当社が事業活動を行う主要な経済環境における通貨(以下「機能通貨」)である日本円であり、百万円未満を四捨五入して表示しています。

### 3. 重要な会計方針

NTTグループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除いて、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

#### 収益認識方法の変更

NTTグループは当連結会計年度より、長距離・国際通信事業に属するNTT Ltdグループにおいて一部サービス等の提供に係る収益の認識方法を変更しました。

NTTグループは2019年7月にグローバルビジネスの競争力強化と収益性向上を目指しNTT Ltdを設立しました。設立後、高付加価値サービスを提供する体制の構築を行い、本格的に開始した新たな事業体制のもと当第1四半期連結累計期間より、高付加価値サービスに注力したサービス提供を行っていくのに合わせて新たなサービスモデルにも対応した収益認識方法について検討を行いました。このサービスモデルが本人、代理人の判定に与える影響を検討し、財又はサービスを提供する約束の履行に対する主たる責任義務を負っているかなどの指標をより重視した結果、顧客への保守サービス等を提供する一部の取引においてNTT Ltdグループは代理人として販売を行っているとは判断しました。

前連結会計年度までは当該サービス等の提供に係る収益について総額で認識していましたが、当連結会計年度より当該サービス等の提供から得られる収益から関連する費用を控除した純額を収益として認識しています。当該収益認識方法の変更により、前第1四半期連結累計期間のNTTグループの営業収益に与える影響は19,863百万円の減少、営業利益、当期利益に与える影響はありません。なお、前第1四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書に対して重要な影響を与えないため当該変更影響による遡及修正を行っていません。

### 4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用ならびに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行っています。これらの見積り及び仮定は、過去の経験及び利用可能な情報を収集し、決算日において合理的であると考えられる様々な要因を勘案した経営者の最善の判断に基づいています。しかし、その性質上、将来において、これらの見積り及び仮定とは異なる結果となる可能性があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した連結会計期間と将来の連結会計期間において認識しています。

NTTグループの要約四半期連結財務諸表で認識した金額に重要な影響を与える判断、見積り及び仮定は原則として前連結会計年度と同様です。

なお、新型コロナウイルス感染症流行拡大については、前事業年度の有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載のとおり、その長期化により、お客さまの事業活動が縮小し、システムインテグレーションの受注や各種サービスの販売が減少することや、計画していた工事等が遅延する等、事業活動に大きな影響が生じる可能性があり、また、感染症終息後は、人々の生活や企業の活動のスタイルが大きく変容する可能性があり、それらの結果としてNTTグループの経営成績や財政状態に影響を与える可能性があります。しかしながら、当第1四半期連結会計期間末において、当社の会計上の見積り及び見積りを伴う判断に重要な影響は与えておりません。

### 5. 未適用の新基準

本要約四半期連結財務諸表の承認日までに新設または改訂が行われた基準書及び解釈指針のうち、NTTグループが早期適用していないもので、適用によりNTTグループに重要な影響を及ぼす可能性がある事項はありません。

## 6. セグメント情報

以下に報告されている事業セグメントは、そのセグメントごとの財務情報が入手可能なもので、その財務情報はNTTグループの経営陣によって、経営資源の配分の決定及び業績の評価に用いられており、これらに含まれるサービスは以下のとおりです。

### 移動通信事業セグメント

移動音声関連サービス、IP系・パケット通信サービス、通信端末機器販売、その他

### 地域通信事業セグメント

固定音声関連サービス、IP系・パケット通信サービス、通信端末機器販売、システムインテグレーションサービス、その他

### 長距離・国際通信事業セグメント

固定音声関連サービス、IP系・パケット通信サービス、通信端末機器販売、システムインテグレーションサービス、その他

### データ通信事業セグメント

システムインテグレーションサービス

### その他の事業セグメント

主に建築物の保守、不動産賃貸、システム開発、リース、研究開発等に係るその他のサービス

営業収益：

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	一部子会社のセグメント 間異動による影響額
移動通信事業			
外部顧客に対するもの	1,143,460	1,081,348	23,601
セグメント間取引	15,826	16,803	189
小計	1,159,286	1,098,151	23,790
地域通信事業			
外部顧客に対するもの	581,133	562,877	329
セグメント間取引	165,358	173,420	148
小計	746,491	736,297	477
長距離・国際通信事業			
外部顧客に対するもの	530,269	460,861	23,601
セグメント間取引	25,623	26,427	756
小計	555,892	487,288	22,845
データ通信事業			
外部顧客に対するもの	500,756	501,746	-
セグメント間取引	26,520	29,190	-
小計	527,276	530,936	-
その他の事業			
外部顧客に対するもの	159,820	159,625	329
セグメント間取引	178,712	184,614	6,339
小計	338,532	344,239	6,668
セグメント間取引消去	412,039	430,454	7,136
合計	2,915,438	2,766,457	-

前第2四半期連結会計期間より、一部の子会社が「地域通信事業」から「その他の事業」へ、また、「長距離・国際通信事業」から「移動通信事業」へそれぞれセグメント間を異動しています。同期間以降は異動後のセグメントで営業収益を認識しています。なお、これらのセグメント間の異動があった場合と比較した場合の、前第1四半期連結累計期間における営業収益の増加額または減少額を、上記の「一部子会社のセグメント間異動による影響額」として表示しています。

「長距離・国際通信事業」におけるNTT Ltdグループの収益認識方法の変更により、前第1四半期連結累計期間の当該セグメントの営業収益に与える影響は19,863百万円の減少です。なお、同期間における当該セグメントの営業収益に対して重要な影響を与えないため当該変更影響による遡及修正を行っていません。変更内容については、「注記3.重要な会計方針」に記載しています。

セグメント別損益：

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)	一部子会社のセグメント 間異動による影響額
セグメント利益			
移動通信事業	278,716	280,536	540
地域通信事業	144,595	125,692	181
長距離・国際通信事業	29,054	40,525	541
データ通信事業	29,838	26,687	-
その他の事業	28,860	28,398	179
合 計	511,063	501,838	1
セグメント間取引消去	5,869	4,252	1
営業利益	505,194	497,586	-
金融収益	31,383	8,337	-
金融費用	12,290	10,993	-
持分法による投資損益	2,496	1,689	-
税引前四半期利益	526,783	496,619	-

前第2四半期連結会計期間より、一部の子会社が「地域通信事業」から「その他の事業」へ、また、「長距離・国際通信事業」から「移動通信事業」へそれぞれセグメント間を異動しています。同期間以降は異動後のセグメント間でセグメント利益を認識しています。なお、これらのセグメント間の異動があった場合と比較した場合の、前第1四半期連結累計期間におけるセグメント利益の増加額または減少額を、上記の「一部子会社のセグメント間異動による影響額」として表示しています。

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間において、総収益の10%以上の営業収益が、単一の外部顧客との取引から計上されるものではありません。

## 7. 前々連結会計年度及び前第1四半期連結会計期間の末日が休日であることの要約四半期連結財務諸表への影響

前々連結会計年度及び前第1四半期連結会計期間については、末日が休日であり、通信サービス料金等の支払期限が翌月初に後倒しになっています。これによる、要約四半期連結財務諸表への影響は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2020年4月1日から 2020年6月30日まで)
(要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書)		
営業債権及びその他の債権の増減(は増加額)	10,894	-
現金及び現金同等物の期首残高	223,672	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	234,566	-

## 8. 売却目的で保有する資産

### NTT・TCリース株式会社の共同支配企業への移行について

#### 概要

当社は、2020年2月6日開催の取締役会において、東京センチュリー株式会社（以下「東京センチュリー」）と資本業務提携（以下「本資本業務提携」）を行うことを決議し、本資本業務提携に関する契約を締結しました。

本資本業務提携の一環として、当社及び東京センチュリーは、両社の国内外におけるリース事業及びファイナンス事業を強化・拡充するために、NTTファイナンス株式会社（以下「NTTファイナンス」）のリース事業及びグローバル事業の一部を、同社が新たに設立した新会社（「NTT・TCリース株式会社」）に対し分社型吸収分割の方法により承継させた後、2020年7月8日にNTTファイナンスから東京センチュリーに新会社の発行済株式総数の50%に相当する株式を譲渡しました。これにより、NTT・TCリース株式会社は、当社及び東京センチュリーによる共同支配企業となりました。

#### 会計処理及び要約四半期連結財務諸表への影響

当第1四半期連結会計期間末において「その他の事業」セグメントに含まれているNTTファイナンスのリース事業及びグローバル事業の一部に関連する資産及び当該資産に直接関連する負債は、株式譲渡完了までの間、売却目的で保有する資産及び売却目的で保有する資産に直接関連する負債として分類しています。なお、売却費用控除後の公正価値が帳簿価額を上回っているため、当該資産及び負債は帳簿価額で測定しています。

### 売却目的で保有する資産及び売却目的で保有する資産に直接関連する負債として分類される処分グループの内訳

前連結会計年度末(2020年3月31日)

(単位：百万円)

勘定科目		勘定科目	
(資産の部)		(負債の部)	
営業債権及びその他の債権	817,249	短期借入債務	32,148
その他の金融資産(流動)	291,988	営業債務及びその他の債務	17,373
有形固定資産	115,057	リース負債(流動)	4,858
その他の金融資産(非流動)	114,678	その他の流動負債	11,348
その他	8,335	長期借入債務	447,503
		リース負債(非流動)	26,538
		その他の金融負債(非流動)	18,357
		その他	1,307
合計	1,347,307	合計	559,432

当第1四半期 連結会計期間末(2020年6月30日)

(単位:百万円)

勘定科目		勘定科目	
(資産の部)		(負債の部)	
営業債権及びその他の債権	814,075	短期借入債務	53,803
その他の金融資産(流動)	279,860	営業債務及びその他の債務	14,380
有形固定資産	120,448	リース負債(流動)	4,929
その他の金融資産(非流動)	120,770	その他の流動負債	12,823
その他	10,374	長期借入債務	419,202
		リース負債(非流動)	26,863
		その他の金融負債(非流動)	18,665
		その他	1,359
合計	1,345,527	合計	552,024

「売却目的で保有する資産」に関連するその他の資本の構成要素への影響は軽微です。  
また、本株式譲渡取引による当社の要約四半期連結損益計算書への影響は軽微です。

上記の売却目的で保有する資産及び売却目的で保有する資産に直接関連する負債の表に含まれる金融商品の公正価値

公正価値で測定されない金融商品の公正価値

公正価値で測定されない金融商品の帳簿価額及び見積公正価値

(単位:百万円)

	前連結会計年度末 (2020年3月31日)		当第1四半期 連結会計期間末 (2020年6月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
長期借入債務(1年以内返済または償還予定の残高を含む)	479,651	478,696	473,005	472,358

上記の項目は公正価値の測定に使用される仮定(インプット)の区分はレベル2に分類しています。

上記の項目を除き、帳簿価額は概ね公正価値に相当しているため、表中には含めていません。また、公正価値の測定方法は前連結会計年度末と変更ありません。



公正価値の測定

公正価値で測定している資産及び負債

前連結会計年度末(2020年3月31日)

(単位:百万円)

区分	公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
負債証券	-	100,923	-	100,923
出資金	-	-	6,990	6,990
貸付金	-	129,566	-	129,566
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
持分証券	-	-	434	434
合計	-	230,489	7,424	237,913
金融負債:				
損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融負債				
ヘッジ会計を適用しているもの	-	1,573	-	1,573
合計	-	1,573	-	1,573

当第1四半期 連結会計期間末(2020年6月30日)

(単位:百万円)

区分	公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
負債証券	-	98,583	-	98,583
出資金	-	-	7,044	7,044
貸付金	-	111,380	-	111,380
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
持分証券	303	-	414	717
合計	303	209,963	7,458	217,724
金融負債:				
損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融負債				
ヘッジ会計を適用しているもの	-	1,542	-	1,542
合計	-	1,542	-	1,542

1. 当第1四半期連結会計期間において、重要なレベル間の振替はありません。
2. 当第1四半期連結会計期間において、レベル3に分類された金融商品について、重要な変動は生じていなかったことから、レベル3の調整表は開示していません。

## 9. 有形固定資産

有形固定資産の内訳

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2020年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間末 (2020年6月30日)
電気通信機械設備	10,895,484	10,929,227
電気通信線路設備	16,502,388	16,535,861
建物及び構築物	5,611,601	5,619,602
機械、工具及び備品	2,350,900	2,366,759
土地	705,456	710,175
建設仮勘定	441,836	476,978
小計	36,507,665	36,638,602
減価償却累計額及び減損損失累計額	27,420,202	27,566,740
有形固定資産合計	9,087,463	9,071,862

## 10. 社債

社債に関する取引の内訳

前第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)						
取引	発行会社	名称	額面金額	利率	発行年月日	償還期限
償還	日本電信電話株式会社	第59回電信電話債券	100,000百万円	1.69%	2009年 6月10日	2019年 6月20日
償還	NTTファイナンス株式会社	第46回無担保社債	20,000百万円	0.25%	2014年 5月27日	2019年 6月20日
発行	NTTファイナンス株式会社	第13回ユーロユーロ建社債	100百万ユーロ	0.26%	2019年 6月25日	2023年 6月26日
発行	NTTファイナンス株式会社	第14回ユーロユーロ建社債	25百万ユーロ	0.33%	2019年 6月25日	2024年 6月25日

当第1四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)						
取引	発行会社	名称	額面金額	利率	発行年月日	償還期限
償還	NTTファイナンス株式会社	第7回ユーロ米ドル建社債	500百万米ドル	3か月米ドル Libor + 0.53%	2017年 6月29日	2020年 6月29日
発行	NTTファイナンス株式会社	第14回無担保社債	40,000百万円	0.001%	2020年 6月25日	2023年 6月20日

## 11. 資本及びその他の資本項目

### (1) 発行済株式数及び自己株式

#### 発行済株式数及び自己株式数の推移

(単位:株)

	発行済株式	自己株式
2019年4月1日	1,950,394,470	32,997,746
取締役会決議に基づく自己株式の取得	-	99,763,016
単元未満株式買取請求による自己株式の取得	-	47,564
単元未満株式買増請求による自己株式の処分	-	4,246
株式分割による増加	1,950,394,470	132,788,632
2020年3月31日	3,900,788,940	265,592,712
単元未満株式買取請求による自己株式の取得	-	6,996
単元未満株式買増請求による自己株式の処分	-	3,152
第三者割当による自己株式の処分	-	80,775,400
2020年6月30日	3,900,788,940	184,821,156

#### 株式分割

当社は、2019年11月5日開催の取締役会決議に基づき、2020年1月1日を効力発生日として、基準日である2019年12月31日の株主の保有する株式を1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しています。

#### トヨタ自動車株式会社の株式取得、および第三者割当による自己株式の処分

当社は、2020年3月24日開催の取締役会において、トヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ自動車）と業務資本提携に関する合意書を締結することを決議し、同日付で締結いたしました。当該合意のもと、第三者割当増資における総数引受契約を2020年4月9日に相互に締結し、当社は同日付でトヨタ自動車株式の取得、およびトヨタ自動車を割当先とする第三者割当による自己株式の処分を行っています。

#### トヨタ自動車を割当先とする自己株式の処分の概要

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| (1) 処分日               | 2020年4月9日        |
| (2) 処分する株式の種類及び数      | 普通株式 80,775,400株 |
| (3) 処分価額              | 1株につき2,476円      |
| (4) 処分価額の総額           | 199,999,890,400円 |
| (5) 処分後のトヨタ自動車による持分比率 | 当社発行済株式総数の2.07%  |

当社の取締役会による発行済普通株式を対象とする自己株式の取得の決議と取得状況

決議日	予定			実績			
	取得期間	取得株式 総数の 上限 (万株)	取得総額 の上限 (百万円)	取得期間	取得株式 総数(株)	取得金額 (百万円)	取得 状況
2019年5月10日	2019年5月13日 から 2019年7月31日	5,300	250,000	2019年5月 から 2019年7月	50,480,100	250,000	終了
2019年8月6日	2019年8月7日 から 2019年9月30日	5,300	300,000	2019年9月	48,980,000	251,071	終了

(2)非支配持分へ付与されたプット・オプション

NTTグループが非支配持分の所有者に対して付与した子会社株式の売建プット・オプションについて、資本剰余金から減額されている金額は、前連結会計年度末及び当第1四半期連結会計期間末において、それぞれ9,894百万円及び9,219百万円です。

(3)その他の資本の構成要素の内容

その他の資本の構成要素の内訳及び増減

前第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	その他の包括利益を通じて公正価値測定する金融資産の公正価値変動額	キャッシュ・フロー・ヘッジ	確定給付制度の再測定	外貨換算調整額	合計
2019年3月31日	138,290	5,115	-	48,912	182,087
その他の包括利益	3,301	134	291	37,518	34,374
利益剰余金への振替額	29,101	-	291	-	28,810
2019年6月30日	112,490	4,981	-	11,394	118,903

当第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	その他の包括利益を通じて公正価値測定する金融資産の公正価値変動額	キャッシュ・フロー・ヘッジ	確定給付制度の再測定	外貨換算調整額	合計
2020年3月31日	48,103	5,515	-	18,680	23,908
その他の包括利益	53,662	2,531	141	3,786	59,838
利益剰余金への振替額	1,480	-	141	-	1,621
2020年6月30日	103,245	2,984	-	14,894	85,367

#### (4)配当金

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間における配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円) 1、 2	基準日	効力発生日
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	182,153	95	2019年3月31日	2019年6月26日
2020年6月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	172,672	47.5	2020年3月31日	2020年6月24日

- 1 2019年6月25日定時株主総会決議に基づく配当の1株当たり配当額については、2020年1月1日を効力発生日とする普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っており、当該株式分割調整前の金額を記載していません。
- 2 2020年6月23日定時株主総会決議に基づく配当の1株当たり配当額については、当該株式分割後の金額を記載しています。

#### (5)非支配持分との資本取引

2019年4月26日、NTTドコモの取締役会は、2019年5月7日から2020年4月30日における、発行済普通株式総数1億2,830万株、取得総額300,000百万円の自己株式の取得枠に係る決議をし、2019年5月から2020年3月にかけて普通株式106,601,600株を300,000百万円で取得しました。その結果、NTTグループのNTTドコモに対する持分比率が64.1%から66.2%に上昇し、前連結会計年度において資本剰余金が82,061百万円減少しました。

#### (6)その他

NTT法によると、当社は、新株または新株予約権付社債の発行及び剰余金の処分を含む特定の財務関連事項について総務大臣の認可を得なければなりません。

## 12. 営業収益

### 分解した収益とセグメント収益の関連

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

		前第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）					
		セグメント					
		移動通 信事業	地域通 信事業	長距離・国 際通 信事業	デー タ通 信 事業	その 他 の 事 業	合 計
主要な サービス	固定音声関連サービス	-	209,331	43,001	-	-	252,332
	移動音声関連サービス	231,263	-	-	-	-	231,263
	IP系・パケット通信サービス	535,691	281,716	104,678	-	1,216	923,301
	通信端末機器販売	167,537	17,604	2,481	-	-	187,622
	システムインテグレーションサービス	-	22,986	346,270	500,756	6,563	876,575
	その他のサービス	208,969	49,496	33,839	-	152,041	444,345
	合計	1,143,460	581,133	530,269	500,756	159,820	2,915,438

(単位：百万円)

		当第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）					
		セグメント					
		移動通 信事業	地域通 信事業	長距離・国 際通 信事業	デー タ通 信 事業	その 他 の 事 業	合 計
主要な サービス	固定音声関連サービス	-	190,745	40,198	-	-	230,943
	移動音声関連サービス	270,568	-	-	-	-	270,568
	IP系・パケット通信サービス	488,902	280,212	103,900	-	-	873,014
	通信端末機器販売	89,937	14,128	1,502	-	-	105,567
	システムインテグレーションサービス	-	23,253	301,531	501,746	14,734	841,264
	その他のサービス	231,941	54,539	13,730	-	144,891	445,101
	合計	1,081,348	562,877	460,861	501,746	159,625	2,766,457

前第2四半期連結会計期間より、一部の子会社が「地域通信事業」から「その他の事業」へ、また、「長距離・国際通信事業」から「移動通信事業」へそれぞれセグメント間を異動しており、同期間以降は異動後のセグメントで営業収益を認識しています。これによる影響額は「注記6. セグメント情報」に記載しており、主に「その他のサービス」に含まれます。

NTTグループにおいては、移動通信事業、地域通信事業、長距離・国際通信事業、データ通信事業、その他の事業の5つの事業セグメントにおいて、固定音声関連サービス、移動音声関連サービス、IP系・パケット通信サービス、通信端末機器販売、システムインテグレーションサービス及びその他のサービスの6つのサービスを提供しています。

### 13. 金融商品の公正価値

#### (1) 公正価値で測定されない金融商品の公正価値

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2020年3月31日)		当第1四半期連結会計期間末 (2020年6月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
長期借入債務(1年以内に返済又は償還予定の残高を含む)	2,640,564	2,697,274	2,758,653	2,812,313

上記の項目は公正価値の測定に使用される仮定(インプット)の区分はレベル2に分類しています。

上記の項目を除き、帳簿価額は概ね公正価値に相当しているため、表中には含めていません。また、公正価値の測定方法は前連結会計年度末と変更ありません。

売却目的で保有する資産に直接関連する負債に含まれる金融商品は「注記8. 売却目的で保有する資産」に記載しており、表中には含めていません。

#### (2) 公正価値の測定

公正価値を測定している資産及び負債

前連結会計年度末(2020年3月31日)

(単位：百万円)

区分	公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
出資金	-	1,387	38,338	39,725
貸付金	-	-	-	-
デリバティブ金融資産				
ヘッジ会計を適用しているもの	-	5,009	-	5,009
ヘッジ会計を適用していないもの	-	5,714	-	5,714
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
持分証券	378,607	-	56,175	434,782
合計	378,607	12,110	94,513	485,230
金融負債:				
損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融負債				
ヘッジ会計を適用しているもの	-	23,553	-	23,553
ヘッジ会計を適用していないもの	-	1,646	-	1,646
合計	-	25,199	-	25,199

当第1四半期連結会計期間末（2020年6月30日）

（単位：百万円）

区分	公正価値			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産：				
損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
出資金	-	2,387	37,198	39,585
貸付金	-	16,149	-	16,149
デリバティブ金融資産				
ヘッジ会計を適用しているもの	-	5,387	-	5,387
ヘッジ会計を適用していないもの	-	3,692	-	3,692
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
持分証券	686,690	-	51,477	738,167
合計	686,690	27,615	88,675	802,980
金融負債：				
損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融負債				
ヘッジ会計を適用しているもの	-	20,891	-	20,891
ヘッジ会計を適用していないもの	-	1,537	-	1,537
合計	-	22,428	-	22,428

1. 当第1四半期連結会計期間において、重要なレベル間の振替はありません。
2. 当第1四半期連結会計期間において、レベル3に分類された金融商品について、重要な変動は生じていなかったことから、レベル3の調整表は開示していません。

金融商品に関する公正価値の評価技法は前連結会計年度末と変更ありません。

売却目的で保有する資産、及び売却目的で保有する資産に直接関連する負債に含まれる金融商品は「注記8. 売却目的で保有する資産」に記載しており、表中には含めていません。

## 14. 後発事象

### NTT・TCリース株式会社の共同支配企業への移行について

2020年7月8日にNTTファイナンス株式会社は、保有するNTT・TCリース株式会社の発行済株式総数の50%に相当する株式を東京センチュリー株式会社に譲渡しました。これにより、NTT・TCリース株式会社は、当社及び東京センチュリー株式会社による共同支配企業となりました。

なお、本譲渡取引による要約四半期連結損益計算書への影響は軽微です。

東京センチュリー株式会社との資本業務提携契約の締結等については、「8. 売却目的で保有する資産」に記載しています。



## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月12日

日本電信電話株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 金井 沢治

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田中 賢二

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大木 正志

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本電信電話株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本電信電話株式会社及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析の手續その他の四半期レビュー手續を実施する。四半期レビュー手續は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手續である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。